

令和8年度 事業計画



岡山理科大学附属中学校



生徒が学習や学校生活に集中できる、安全で安心な教育環境を提供します。また、附属高校への進学を保障しつつ、難関公立高校への進学など、多様な進路選択を可能にします。さらに、校訓に基づき、これからの社会で活躍できる人格育成を目指します。



現代社会では、AIをはじめとする科学技術が目覚ましい進化を遂げる中、経済や社会の構造もダイナミックに変化しています。このような状況に対応するため、既存の知識や技能を伝授するだけでなく、未知の状況にも柔軟に対応できる思考力や判断力、さらに学びを生かす意欲を備えた人間性の育成を目指す教育改革が、幼稚園から高校にかけて推進され、大学入試にも反映されるようになりました。

本校では、中学校教育として、安全で安心して学べる環境を提供し、その中で思考力や判断力を養い、意欲を持って仲間と協働して学ぶ力を育成する教育に取り組んでいます。

また、附属高校への進学を保障し、岡山理科大学への進学優遇を確保しながら、難関国公立高校を目指す進路も提供しています。

加計学園は、これからの社会を支える人材を育成するため、学園全体で共有する将来像に基づいた5カ年計画「加計学園ビジョン2026」を策定しています。この計画に沿って策定した「岡山理科大学附属中学校アクションプラン2022～2026年度」の中期目標・中期計画を達成するため、岡山理科大学や附属高校等と連携を取りながら、本年度の事業計画として、以下の項目に取り組みます。

I. 教育の推進

- 1) 学力を定着・向上させるための対応
- 2) 自らを律する人格の形成と基本的な学習生活習慣の確立

II. 生徒の支援

- 1) 生徒の多様な資質や希望に応える進学ルート設計
- 2) 生徒支援・指導体制の充実

III. 地域社会との連携

IV. 国際化の推進

V. DXの推進

VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

岡山理科大学附属中学校 校長 近藤 治

I. 教育の推進

1. 学力の定着・向上についての目標

中期計画	事業計画
<p>[1] 学力の定着・向上についての計画</p> <p>1) 進路志望への対応</p> <p>進路志望に対応したクラスやカリキュラム、さらに教育内容の最適化を進めて生徒の志望に応じた指導に取り組む。</p>	<p>ア クラス編成と教育目標</p> <p>少人数教育を基本としたクラス編成のもと、生徒の多様な進路希望に対応できる SR (Special Route) クラス* を設置し、教育を進める。生徒には将来の進路をしっかりと考えた上で選択させ、それぞれの目標を実現するための学力養成に努める。</p> <p>【SR クラス*：難関県立高校等を目指す3年間ルート、附属高校で学び、国公立大学や難関私立大学を目指す6年間ルート、附属高校から岡山理科大学などの関連校へ進学する10年間コースを示す。】</p> <p>イ 共通の教育目標</p> <p>ベネッセの「今未来手帳ジュニア版」を活用し、一日の学習目標の設定と振り返りを実践することで、計画的に生活し、学習する習慣を身に付けさせる。さらに、適切な学習習慣の定着に深く関わる人格的な要素の育成にも力を入れる。</p> <p>また、校訓「立志三風」に基づく指導を通じて、自らを律し、目標を持って主体的に努力する生徒や、真心をもって他者と協働できる生徒を育てる。</p>
<p>2) 思考力・表現力などの養成</p> <p>論理的な思考力や表現力を育む授業をカリキュラムに取り入れる。また、一人一台端末の機能を十分活用する授業を実施する。</p>	<p>ウ カリキュラム</p> <p>教科の学習時間を精選し、基礎学力の充実を図る。また、難関公立高校や難関私立高校への進学を目指す生徒には、受験に必要な学力を養成するとともに、高校で求められる自分の考えを分かりやすく説明する力の育成にも力を入れる。さらに、探究活動を推進し、科学的・論理的な思考力の向上を図る。</p> <p>エ 論理力向上のための取組</p> <p>国語の授業では、副教材として「論理エンジン」を活用し、論理的な文章構成の理解を深めるとともに、文章作成能力を養う。</p> <p>また、「論理文章能力検定」や「作文検定」などの外部試験を通じて、生徒が達成感を得られるよう支援しながら、論理力の定着を図る。</p> <p>オ GIGA スクール構想への対応</p> <p>校内に高速インターネット環境を整備し、生徒一人ひとりに Chromebook を貸与する。また、デジタル教科書を活用し、英語学習のほか、国語・社会・総合的な学習の時間における探究活動やまとめ学習にも取り組む。</p>
<p>3) 授業改善のための教員の教える力の改善</p> <p>授業改善のために必要な教員研修を実施する。</p>	<p>カ 授業改善</p> <p>これからの授業に求められるアクティブラーニングや GIGA スクール構想に基づく ICT を活用した授業方法、生徒の成績評価方法について、教職員向けの研修会を定期的実施する。</p> <p>また、クラウド型校務支援システム「BLEND」を活用し、教員間や保護者との情報共有を促進する。</p> <p>さらに、教員の教育力強化を図るため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センター（JP176）との連携を継続する。</p>

中期計画	事業計画
	<p>キ 教科会議・学年団会議の強化・連携</p> <p>中学校校務会議を毎週開催し、学校全体での円滑な校務運営を図る。また、各教科では、教科責任者を中心とした教科会議を年3回以上開き、授業改善の取組を推進するとともに、情報共有を通じて指導力の向上に努める。さらに、学年団会議や中学校担任会議を通じて生徒の情報を共有し、一人ひとりに応じた的確な指導を行う。</p>

2. 人格の形成と学習生活習慣の確立の目標

中期計画	事業計画		
<p>[2] 人格の形成と学習生活習慣の確立の計画</p> <p>学校行事などの機会を通して、校訓や教育方針の積極的な指導を行う。また、服装と挨拶の励行を指導する。</p>	<p>ク 校訓</p> <p>加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、また、「生活三則」の指導に取り組む。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <p>立志三風</p> <p>一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）</p> <p>一、振気・勉学の良風を尚ぶ（努力）</p> <p>一、忠恕・爽凜の美風を養う（友愛）</p> </td> <td style="width: 50%; border: none;"> <p>生活三則</p> <p>一、場を清めましょう</p> <p>一、時を守りましょう</p> <p>一、礼を正しましょう</p> </td> </tr> </table>	<p>立志三風</p> <p>一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）</p> <p>一、振気・勉学の良風を尚ぶ（努力）</p> <p>一、忠恕・爽凜の美風を養う（友愛）</p>	<p>生活三則</p> <p>一、場を清めましょう</p> <p>一、時を守りましょう</p> <p>一、礼を正しましょう</p>
	<p>立志三風</p> <p>一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）</p> <p>一、振気・勉学の良風を尚ぶ（努力）</p> <p>一、忠恕・爽凜の美風を養う（友愛）</p>	<p>生活三則</p> <p>一、場を清めましょう</p> <p>一、時を守りましょう</p> <p>一、礼を正しましょう</p>	
	<p>ケ 服装指導の実施</p> <p>校訓「凜とした爽やかさ」をモットーに、TPO にふさわしい清潔感のある身だしなみを指導する。</p>		
	<p>コ 挨拶の励行</p> <p>朝の挨拶運動や職場体験活動を通じて、相手に伝わる気持ちのこもった挨拶ができるよう指導するとともに、状況に応じた適切な言葉遣いが身に付くよう働きかける。</p>		
	<p>サ 共通の教育目標</p> <p>校訓「立志三風」の指導を通じて、生徒が甘えを捨てて困難を乗り越え、目標を持って主体的に努力し、真心をもって他者と協働する力を育む。</p> <p>また、「生活三則」に基づき、基本的な生活習慣を確立するとともに、集団の中で協力しながら主体的に行動する力を身に付けられるよう指導する。</p>		
<p>シ 将来につながるリーダーの育成</p> <p>体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会などの様々な学校行事は、実行委員の生徒による主体的な運営に委ね、生徒会が統括し、円滑な進行を支える。また、オープンスクールでは、小学生の参加者に対して、全生徒が自らの成長した姿を適切に示すよう指導する。このような自主的な活動を通じて、企画力、実践力、思考力、協働する力やリーダーシップなどを養い、それぞれの人間形成へとつなげる。</p>			

II. 生徒の支援

1. 生徒の多様な資質や志望に応えるための目標

中期計画	事業計画
<p>[3] 生徒の多様な志望に応えるための計画</p> <p>生徒の志望に沿って、体系的に学習し、体験する機会を提供し、各自のキャリア実現に求められる学力や能力を育成する。</p>	<p>ス 学習計画の指導</p> <p>「今未来手帳ジュニア版」を活用し、毎日の記録を残して継続的に振り返ることで、自らを客観的に捉え、行動に反映させる力を育む。また、「自分史プロジェクト」と題し、さまざまな活動の振り返りをまとめ、ポートフォリオを作成できるよう指導する。</p>

2. 多様な生徒の支援に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[4] 多様な生徒の支援に関する計画</p> <p>健康管理や学校生活及び家庭生活における具体的な相談や指導に対応するため、生活支援体制を更に充実させる。</p>	<p>セ 家庭・地域社会との協力・連携強化</p> <p>クラス担任による毎日の「今未来手帳ジュニア版」の確認を通じて、家庭学習の計画力を養い、生徒の学校生活だけでなく、家庭や地域での生活も支援する。</p>
	<p>ソ 教育相談室・保健室との連携</p> <p>思春期を迎える中学生が心身ともに健やかに過ごせるよう、担任や生徒指導課と教育相談室、保健室が綿密に連携を取り、生徒の指導を支援する。</p>

III. 地域社会との連携

1. 良好な社会的関係構築に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[5] 良好な社会的関係構築に関する計画</p> <p>登下校時の中学生としてのマナー順守を徹底する。</p>	<p>タ 家庭・地域社会との協力・連携強化</p> <p>中学生専用定期バスの乗車指導や通学指導などの登下校指導を実施し、また、毎日の「今未来手帳ジュニア版」の確認を通じて、生徒が家庭や地域と良好な関係を築けるよう支援する。</p>

2. 地域教育の目標

中期計画	事業計画
<p>[6] 地域教育の計画</p> <p>教育活動やマナー指導を通して、地域社会との関りの重要性を生徒に説明する。</p>	<p>チ 社会規範育成への取組</p> <p>外部講師による講演などを活用し、生徒の規範意識の向上に努める。また、学校独自の規則を教えるだけでなく、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じて、状況に応じた適切な言動が取れるよう、日頃から生徒への指導や話し合いを重ねる。</p>
	<p>ツ 情報教育</p> <p>生徒のインターネットリテラシーの現状を踏まえ、情報モラルの向上に努める。その一環として、岡山県警察本部から講師を招き、「インターネットモラル教育」に関する講演を実施する。また、SNSなどにおける個人情報の適切な取り扱いについても指導する。</p>

中期計画	事業計画
	<p>テ 塾との関係強化</p> <p>中学校入試において、私塾の影響力は大きく、塾からの情報収集と本校からの迅速な広報活動は、受験生・入学生の確保に欠かせない。塾との対話は、入試広報の専任教員が引き続き一元的に対応し、信頼関係を構築する。</p> <p>さらに、入試結果を踏まえた塾向けの説明会を実施する。</p>

IV. 国際化の推進

1. 国際力向上の目標

中期計画	事業計画
<p>[7] 国際力向上の計画</p> <p>全クラスで英会話授業を実施し、英検やケンブリッジ英検での取得目標を学年ごとに提示して、英語力の向上を進める。また、附属高校で実施されている国際バカロレア教育を取り入れた活動を実施する。</p>	<p>ト 英語力の向上</p> <p>「総合英語」の授業内で、1～2年生の全クラスを対象に英語力を伸ばす教育を実施し、生徒が積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養う。また、4技能（聞く・話す・読む・書く）に対応した、ケンブリッジ大学英語検定機構発刊のコースブックや英語教材を使用し、SDGs について英語のテキストを通じて学ぶことで、社会意識の向上を図る。</p>
	<p>ナ 実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施</p> <p>(1) 1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目標とする。 (2) 2年在籍生徒の8割以上が4級以上の取得を目標とする。 (3) 3年在籍生徒の6割以上が3級以上の取得を目標とする。 (4) 教員が生徒に対し、積極的に受験指導を行う。</p>
	<p>ニ 希望者にはケンブリッジKey Testを実施</p> <p>(1) 1年修了時にはCEFRのA2レベルをクリアすることを目標にする。 (2) 2年修了時にはCEFRのB1レベルをクリアすることを目標にする。 (3) CEFRのB1レベルをクリアした生徒にはB2レベルの受験を勧める。</p>
	<p>ヌ 国際バカロレア教育の活用</p> <p>附属高等学校で実施されている国際バカロレア教育の手法を取り入れ、課題に対して論理的かつ批判的に考え、探究する学習活動に取り組む。</p>

V. DXの推進

1. ICT 活用に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[8] ICT 活用に関する計画</p> <p>ICT 活用推進のためのFD 実施及び各種証明書の申請手続きのweb 化を図る。</p>	<p>ネ 教職員研修</p> <p>これからの授業に求められるアクティブラーニングやGIGA スクール構想に基づくICT を活用した授業方法、AI を活用した自動採点システム、成績評価の在り方について、教職員向けの研修会を年2 回以上実施する。</p>
	<p>ノ 申請手続きのWeb 化</p> <p>各種証明書の申請手続きをWeb 化するため、さまざまな方法を調査し、比較・検証する。また、定期テストなどの試験における自動採点システムの導入を進める。</p>

VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

1. 学校運営の改善及び効率化に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[9] 学校運営の改善及び効率化に関する計画</p> <p>校長がリーダーシップを発揮できる環境を充実させるため組織及び運営の改善を継続的・恒常的に実施する。</p>	<p>ハ 学園本部及び岡山理科大学との連携会議の設置</p> <p>○令和7 年度から校長が参画している加計学園の大学情報交換会に加え、学園本部（理事長）や岡山理科大学（学長）との定期的な情報共有及び協働事業を進める会議を設置し、本校の長期ビジョンを検討・策定する。【新規】</p> <p>ヒ 学校運営会議の強化</p> <p>中学校の関係教職員全員が参加する「中学校校務会議」を毎週開催し、学校全体の円滑な校務運営を図っている。また、附属高校との垂直的な連携を十分に機能させるため、附属高校の学校運営会議に附属中学校の管理職が参加し、附属高校との合理的かつ一体的な運営を推進する。</p>

2. 教育の質保証に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[10] 教育の質保証に関する計画</p> <p>アクティブラーニングの導入やIB 教育の理念を取り入れた授業を実施することにより効果的な教育方法・教育内容を充実させる。</p>	<p>フ 授業改善（カ再掲）</p> <p>これからの授業に求められるアクティブラーニングやGIGA スクール構想に基づくICT を活用した授業方法、生徒の成績評価方法について、教職員向けの研修会を定期的実施する。</p> <p>また、クラウド型校務支援システム「BLEND」を活用し、教員間や保護者との情報共有を促進する。</p> <p>さらに、教員の教育力強化を図るため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定 西日本試験センター（JP176）との連携を継続する。</p>
	<p>ヘ 国際バカロレア教育の活用（ヌ再掲）</p> <p>附属高等学校で実施されている国際バカロレア教育の手法を取り入れ、課題に対して論理的かつ批判的に考え、探究する学習活動に取り組む。</p>

3. 内部質保証に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[11] 内部質保証に関する計画</p> <p>内部質保証を充実させ、組織運営の改善に活用するため、的確な評価指標を設定し、適正な個人評価（教員活動評価）を実施する。</p>	<p>ホ 生徒による授業評価・教員自身による授業評価</p> <p>確かな学力を育むため、年2回、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのか（生徒による授業アンケート）を把握し、生徒の視点を生かした授業改善を進める。また、教員自身も自己評価を行い、改善点を明確にし、授業の質の向上に努める。</p>
	<p>マ 生徒・保護者・第三者による学校評価</p> <p>学校教育活動が教育目標の実現に向けて適切に行われているかを、生徒・保護者及び第三者による外部評価を踏まえて検証し、PDCAサイクル確立に向けた学校評価を進める。</p>

4. 財政基盤の強化に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[12] 財政基盤の強化に関する計画</p> <p>経費を抑制するため財務情報等を活用し、財務分析を行うことにより業務の現状を検証し資源配分の重点化や経費削減など、より一層の効率化を実現する。</p>	<p>ミ 財政基盤の強化</p> <p>円滑な学校運営を推進するため、定員の確保を最優先課題とし、本校の広報活動を展開する。特に、塾関係者の理解を深め、入学者の安定的な確保に努める。また、財政的に持続可能な組織を構築するため、将来を見据えた改革と適切な選択を進め、人件費・教育研究経費・管理経費の適正化に取り組む。</p>

主な行事予定（令和8年度）	
4月8日（水）	始業式
4月9日（木）	入学式
4月23日（木）	健康診断
4月24日（金）	校外研修【1年宿泊研修25日（土）まで】
5月9日（土）	PTA役員会・評議員会（新旧評議員顔合わせ会）
5月28日（木）～30日（土）	修学旅行【3年】
7月22日（水）～24日（金）	職業体験【2年】
10月6日（火）	体育祭（シゲトーアリーナ）
10月24日（土）	爽凜祭（学習発表会）
1月15日（金）～16日（土）	校外活動（スキー・スノボ研修）
3月13日（土）	卒業式・立志式
3月19日（金）	終業式

学生数・教職員数

■在籍生徒数

(令和8年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	96	240	252

(単位：人)

■教職員数

(令和8年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員計	事務職員
1	1	16	18	1

※校長は附属高等学校と兼任

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和8年度 予算額	令和7年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	144,845	136,252
		経常費等補助金	73,975	74,057
		その他収入	7,087	19,645
		計	225,907	229,954
	支出	人件費	162,554	156,403
		教育研究経費	54,211	59,597
		管理経費	9,296	11,610
		その他支出	0	63
	計	226,061	227,674	
	教育活動収支差額			△ 154
教 活 外	収入	受取利息等	163	69
	支出	借入金利息等	0	0
	教育活動収支差額		163	69
経常収支差額		9	2,350	
特 別	収入	資産売却差額等	0	0
	支出	資産処分差額等	0	8,436
	特別収支差額		0	△ 8,436
基本金組入前収支差額		9	△ 6,087	
基本金組入額合計		0	0	
当年度収支差額		9	△ 6,087	